

イギリスのご紹介

～滝澤建治厚木剣道連盟会長にご寄稿いただきました～

<イギリス剣道交流のきっかけは54年前のローマオリンピック>

10年前の創立50周年記念誌に掲載されていますので詳細は省きますが、思斉館の初代館長の滝澤光三（右の写真）は厚木生まれの厚木育ち、今から50年以上前、当時警察庁に勤める1960年にピストル競技監督としてローマオリンピックに参加（日本選手3位）、ローマで細々と始まっていた世界の剣道情報に接しています。その2年後に監督としてエジプトのカイロで開催の世界射撃選手権大会に参加（日本選手2位）。大会終了後20日間に亘ってヨーロッパ各国の剣道事情を視察しました。2年後の東京オリンピックのピストル監督（3位）を務めたのは今から50年前のことです。

1969年、全日本剣道連盟のヨーロッパ世界剣道使節団長として各国を訪問し、海外剣道支援の道を切り開いています。そのころから、指導法の勉強や相談に厚木まで来られた外国剣士は多く、現在でもその時の写真やサインなどが思斉館に残されています。

中でも、最もヨーロッパで熱心だったのはイギリスで、滝澤光三先生にイギリス連盟の会長の役を頼みこみ、その活動を軌道に乗せています。続いてヨーロッパ剣道連盟の立ち上げにも参画しています（右上の写真はイギリスから贈られたもので「滝澤光三教士7段イギリス剣道連盟会長」と記されています）。

<新たな世代で交流が始まった>

私は10数年前に、イギリスから講習会を頼まれましたのは、「滝澤元会長の息子が8段に合格したから講師で呼ぼう」と言うことでした。イギリス各地を3回訪問しましたが、そのころのイギリス剣道会長夫妻が、ロンドンから車で3時間のバーミンガム講習会場までわざわざお出でいただき、『イギリスの剣道が今あるのは、貴方のお父さんのお陰です。良く来て下さった。』と言われたのが印象的です。

その講習会で会いしたのが、今回イギリスメンバーの責任者のポールバッデン7段と松田和世6段夫妻です。バッデン7段は滝澤光三先生の教えを受けた長い交流のある先生。松田6段は海老名高校剣道部で活躍、20年前にイギリスに渡り建築士のお仕事の傍ら、二人で剣道指導を続けています。厚木には何度も来ていただいています。今回の「あつぎ剣道祭」は『全員が今からわくわくして楽しみにしています。』とされています。

お二人の道場では、思斉館で稽古をしていた兄弟が、お父さんの転勤でロンドン郊外に引っ越し、片道1時間かけて通って稽古を続けています。また厚木から、ご家族でお二人のもとを訪問して、イギリスの文化に触れながら語学勉強、そして剣道の稽古も楽しみながら、この夏で3回訪問してお世話になり素敵な思い出を作っている人も出ています。



TAKIZAWA KOZO, 7th. Dan Kyoshi
President of the British Kendo Association

<イギリス剣道事情概況>

イギリスの剣道人口は横ばいで約 1000 人、試合の成績は振るいませんが、地道に剣道に取り組み長く続ける人が多いようです。

このように長い交流が続くイギリスから、今回 10 代の若者たち 5 人が来てくれて、またこれからの新しい交流の、橋渡し役になっていただけることでしょう。